



# 日本ラテンアメリカ学会 会 報



2015年12月8日

No.118

1. 理事会報告
2. 第37回定期大会の開催と発表者募集のお知らせ
3. 研究部会開催案内
4. 寄稿：国際学会（Congreso Internacional: Élités y liderazgo en tiempos de cambio）参加報告
5. 寄稿：地域研究コンソーシアム（JCAS）の活動
6. 若手支援助成制度受給者の報告：2015年度ラテンアメリカ研究学会（LASA）参加報告
7. 事務局から  
事務局業務の外部委託に伴う  
手続きの変更について

## <報告事項>

1. 会報第117号について  
欠席の宇佐見理事に代わり、大串理事長がメモを代読し、会報117号を予定通り7月31日に発行したことが報告された。
2. 地域研究部会について  
谷理事から、東日本部会は12月19日（土）午後に上智大学で開催予定であり、追って報告募集を行うことが報告された。（付記：理事会後、谷理事の本務校の校務により、1月16日（土）開催に変更された。）  
小池理事から、中部日本部会は11月29日（日）、12月6日（日）、12月13日（日）のいずれかのうち、他の地域部会と重ならない日程で、愛知県立大学名古屋サテライトキャンパスで開催する予定であることが報告された。（付記：理事会後、日時は12月13日（日）13：30～17：00に決定。場所は名古屋大学国際開発研究科棟に変更された。）  
西日本部会については、担当の村上理事が欠席のため、大串理事長がメモを代読し、12月半ばないし1月前半の土曜日に、京都大学稲盛財団記念館において開催する予定であることが報告された。
3. 会計について  
近田理事から、2015年度定期大会の赤字補填のため、1万5千円弱を近く専修大学に精算する予定であることが報告された。
4. 事務局報告

## 1. 理事会報告

### ○第148回理事会議事録

日 時：2015年9月27日（日）13：30～18：00

場 所：上智大学四谷キャンパス2号館  
8階 2-815a イスパニア語学科  
談話室

出席者：大串（理事長）、久野（書記）、小池、後藤、近田、谷、幡谷、林、宮地、安原

欠席者：村上、宇佐見、林

宮地理事から、事務委託するデータベースの詳細について国際文献社と協議していることが報告された。

#### 5. 学術交流

幡谷理事から、11月29日(日)に地域研究学会連絡協議会(参加20団体)の総会が上智大学で開催され、事務局が改選されること、また10月31日から11月1日に、地域研究コンソーシアムの年次集会とシンポジウムが東京外国語大学で開催されることが報告された。

#### 6. ウェブサイト・学会ニュース

後藤理事から、①年報の過去論文の掲載、②過去3年の定期大会プログラムの欧文化、③学会概要の欧文化という3つの課題のうち、①については全論文のpdf化が終了し、②についてもモデルを作ったことが報告された。

#### 7. 第37回定期大会について

2016年度定期大会について、立岩礼子実行委員長が作成したメモに基づいて、開催予定日が6月4日と5日、場所は京都外国語大学、記念講演者はMichel Jean-Marie Bertrand氏であることが報告された。

#### 8. 年報第35号について

久野理事より、年報35号を2015年6月18日に刊行したこと、及び、年報35号に掲載された36号論文募集の締切日に誤りがあることを会員から指摘され、会報等で訂正したことの報告があった。

#### 9. 年報第36号について

欠席の林理事のメモにより、9月24日に応募を締め切り、応募件数は5件であった旨が報告された。

### <審議事項>

#### 1. 入退会の承認

審議の結果、2名の入会(阿部幸大、水谷菜々子)、1名の退会(岐部雅之)、

7名の会費滞納による除名(鍛冶屋詠子、亀野邁夫、北岸団、浜下賢、田中雅彦、寺田有里砂、渡瀬迪)が承認された(敬称略)。

#### 2. 会報第118号について

会報第118号に掲載する内容について審議の上、承認した。

#### 3. 2017年度の定期大会開催校について

大串理事長より、2017年度の定期大会を東京大学駒場キャンパスで開催することの提案があり、承認された。

#### 4. 事務委託先との契約について

国際文献社と交わす「個人情報の取扱いに関する契約書」、「契約書」、「覚書」(付属の「算定基準書」を含む)、「委託契約条項」(付属する「契約金額算定基準書」を含む)がそれぞれ承認された。

#### 5. 事務委託後の会員異動情報の扱いについて

大串理事長より、国際文献社への事務委託に伴って会員情報の変更は会員自身でマイページから入力するようになるところから、これまで会報に掲載してきた会員異動情報をどうするかとの問題提起があった。従来通り会員異動情報を会報に掲載するメリットと、そのために要する作業及び金銭的成本とを勘案した結果、事務委託後は会報には入退会の情報のみを掲載し、その他の変更は掲載しないことに決定された。

#### 6. 事務委託後の手続き等の変更に関する会員への周知方法及び内容について

宮地理事作成の別紙資料に基づいて審議し、会報に掲載する会員への周知内容が承認された。

#### 7. 選挙管理委員の委嘱について

選挙管理委員の決め方について審議され、理事会で候補を決定して理事長が就任を打診すること、前期の選挙管理委員会から若干名を再任すること、出身大学、

所属先、専門分野、年齢などがある程度分散するようにすること、委員の所属先の地理的範囲が限定されることはやむを得ないこと、選挙管理委員長は委員間で互選すること、初回の選挙管理委員会は理事長が招集して年内に開催することが確認された。

続いて選挙管理委員候補として、尾尻希和会員、南映子会員（以上2名は前期からの再任）、江原裕美会員、三澤健宏会員、藤田護会員、二宮康史会員、及び、上記会員に就任を引き受けていただけなかった場合の予備として若干の会員が候補に決定された。

（付記：理事会後の打診の結果、上記6名の全員から就任の承諾が得られ、選挙管理委員が確定した。）

#### 8. 会則及び理事長・理事選出規則の改正について

大串理事長より、別紙に基づいて会則及び理事長・理事選出規則の改正案と改正理由（会報掲載用）の提案があった。理事選挙の方法を限定列举するやり方もありうるが、今回の改正案では方法を限定していないこと、また理事選挙の時期についても、従来の規則と同様に規定を置いていないことが説明された。

審議の結果、文言の一部修正を除き、原案通り承認された。また、改正案と改正理由を3月刊行の会報に掲載し、同じものを総会でも配布することが確認された。

#### 9. 若手支援制度申請について

資料に基づいて佐藤正樹会員からの申請について審議した結果、「発表の前日と当日の2泊の宿泊費（上限は学術振興会の科研費使用規程に準拠）+交通費（実費）のみを支給する」という2013年6月1日の理事会決定に従い、交通費と2泊分の宿泊費を助成することが決定さ

れた。

#### 10. 会員名簿の専門キーワードの標準リストについて

事務委託後、会員が会員情報を登録し、他の会員を検索するためのキーワードのリストについて、宮地理事の提案に基づいて審議を行った。その結果、「分野」、「テーマ」、「時代」、「国・地域」の4区分にすること、そのうち「分野」、「時代」、「国・地域」についてはラジオボタンで複数選択可能とし、さらに「その他」のボタンの脇に自由記述の欄を設けること、「テーマ」については推奨キーワードリストを掲載するものの、ラジオボタンではなく各自が記入する方式とすることになり、その方向で宮地理事が国際文献社と協議することになった。

具体的なラジオボタンとキーワードのリストについては、会員名簿における記載及び前回の名簿アンケートの文面を参照して宮地理事が理事会メーリングリストに叩き台を提案し、各理事がそれに対して追加・修正の意見を出すことになった。

#### 11. 若手支援制度について

大串理事長より以下の問題提起があった。前回の理事会では、年3回の理事会において1名ずつ（原則として年間3名）の助成対象者を決定すること、複数の申請が競合した場合には、1件のみを承認すること、もし助成対象者がいなければ、同一年度内でその助成枠を次の理事会に持ち越すこと（次の理事会では2件の助成対象を選定することになる）、複数の申請が競合したために一度選外となった申請は次の理事会で審査の対象とすること、同一の申請は最大で3回の理事会まで審査対象とすることができることが決定された。しかし競合により選外となった申請の持ち越しが同一年度に

限られるのかそれとも年度をまたいでもよいのかについて、明確な共通理解がなかったらしいことが前回の理事会議事録作成過程で判明した。そこで、年度をまたぐかどうかにかかわらず理事会3回まで同一の申請を検討対象とすることを原案として提案する。

審議の結果、原案が承認された。

#### 12. 研究年報について

年報の応募件数が少なかったことに鑑み、林理事のメモによる提案に基づき、年報の論文の追加募集について審議された。その結果、林理事の原案通り、11月18日を締切として学会ウェブサイトと学会ニュースで追加募集を行うこと、及び、すでに論文を応募した会員には11月18日まで改稿を認めることが決定された。

関連して大串理事長から、2016年から年報の刊行時期が7月末日発行の会報と同梱になり、会員の手元に届くのが8月上旬となるため、9月末ないし10月上旬の論文締切までほとんど期間がなく、リマインダーとしての役割しか果たせないこと、また現在は7月の会報に掲載されている論文募集の記事にも同じ問題があることから、年報の論文募集は前年の3月末日発行の会報に掲載し、それとともに学会ニュースとウェブサイトでも広報することが提案され、審議の結果これが承認された。

次に、年報の掲載論文が足りない状況が数年間続いているところから、林理事のメモに基づき、抜本的な改善策について意見の交換が行われた。その結果、久野理事と林理事が次の理事会に抜本的な改善策の選択肢について提案し、それを理事会で議論した上で、次期の理事会に申し送ることに決定された。

#### 13. 学会ウェブサイトについて

後藤理事から、クラウドの容量が限界に来ているので有料契約に移行する必要があることが報告され、了承された。

#### 14. 年報の寄贈先について

宮地理事より、アジア経済研究所から年報の寄贈を依頼されたこと、及び、数年前に寄贈先団体を2つに絞ったという経緯があり、アジア経済研究所はその2団体に含まれていないことが報告された。審議の結果、今後はアジア経済研究所を寄贈先団体に含めることが承認された。

#### 15. その他

理事会後のメール審議により、次回理事会は1月31日（日）に上智大学で開催すること、及び、立岩礼子次期定期大会実行委員長がオブザーバー出席することが決定された。

## 2. 第37回定期大会の開催と発表者募集のお知らせ

第37回定期大会は、2016年6月4日（土）および5日（日）の2日間、京都外国語大学（京都市右京区／JR京都駅より市バス28番か71番で約30分、もしくは阪急電鉄京都線「西院」駅より徒歩15分）において開催されます。記念講演には、マドリードにある Casa de Velázquez（フランス・スペインおよびイベリア半島高等研究所 EHEHI: L'Ecole des hautes études hispaniques e ibériques / Escuela de Altos Estudios Hispánicos e Ibéricos, <https://www.casadevelazquez.org/>）の所長 Dr. Michel Jean-Marie Bertrand をお迎えします。バルトラン教授はフランス国立研究所歴史部門委員で、18世紀メキシコ経済史がご専門です。日本人研究者との共同研究の可能性を探るべく、会員の皆様と意見交換できることを楽しみにされています。会員の皆様の奮ってのご参加をお待ち

しています。報告をご希望の方は、2016年1月12日(火)までに、必要事項を下記の連絡先までお知らせください。

#### 1. 個別の研究報告の申込み

学会ホームページ掲載の「個別研究報告申込書」をダウンロードし、必要事項を記入してデジタルファイルにてお申し込みください。

なお、個別報告には必ずディスカッサントをつけますが、ご希望がある場合は候補をご推薦ください。必ずしもご希望に添えない場合もありますが、理事会が受諾確認をいたします。ご希望がない場合は、理事会で適宜ディスカッサントを選定し、依頼します。

報告者とディスカッサントはともに、日本ラテンアメリカ学会の会員であることが必要です。

#### 2. パネルの申込み

学会ホームページ掲載の「パネル研究報告申込書」をダウンロードし、必要事項を記入してデジタルファイルにてお申し込みください。パネルの場合、司会、ディスカッサントおよびディスカッサントの人数はパネル代表者の責任のもとで決定してください。

報告者、ディスカッサント、司会者は、日本ラテンアメリカ学会の会員であることが必要です。ただし、パネルの趣旨にあった構成に不可欠と判断される場合には、非会員の参加も認められます。非会員を加える理由をつけてお申し込みください。なお、非会員の参加1名につき、コーディネーターから参加費1000円をお支払いいただきます。

#### 【発表申込書送付先】

第37回定期大会実行委員会  
Kyotogaidai2016@gmail.com

(電子メールは件名を「定期大会報告希望

(氏名)」としてください。)

今回の報告申し込み後、大会までのスケジュールは、以下になります。

(1) レジュメの提出：レジュメ集に掲載するレジュメを2016年3月31日(木)必着で実行委員会(Kyotogaidai2016@gmail.com)までお送り頂きます。書式等、詳細は追ってご連絡します。

(2) 報告ペーパーの提出：ペーパーは2016年5月12日(木)までに、村上勇介大会担当理事(ymurakam@cias.kyoto-u.ac.jp)宛に、電子メールでお送りください(京都外国語大学の実行委員会ではありませんのでご注意ください)。なお、ご提出頂いたペーパーは、今年の定期大会と同様に、第37回定期大会開催日をはさむ前後2週間程度、学会HPに会員限定のパスワードを設定した上でアップし、会員のみダウンロード可能な状態にする予定です(パスワードは定期大会プログラム郵送時に会員に通知します。)

大会の詳細は、逐次、学会のホームページや学会ニュース(メール配信)でお知らせします。京都での宿泊はお早めにご予約ください。託児に関しても、追ってご案内する予定です。

多数の会員の皆さまの報告へのご応募、ならびに大会へのご参加をお待ちしております。

#### 【連絡先】

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6  
京都外国語大学 立岩礼子研究室気付  
日本ラテンアメリカ学会  
第36回定期大会実行委員長 立岩礼子  
Kyotogaidai2016@gmail.com

### 3. 研究部会開催案内

下記のように各研究部会の研究会が開催



されます。皆様、ふるってご参加ください。  
なお、東日本部会については、春の研究会  
案内も掲載します。

#### 《東日本部会》

日 時：2016年1月16日（土）13：30～  
17：00

会 場：上智大学四谷キャンパス2号館  
10階  
ポルトガル語学科共用室(2-1030)

報告者については、11月30日を締切と  
して募集中です。詳細が決まりました学  
会ウェブサイトおよびメーリングリストで  
お知らせ致します。会員の皆さまの積極  
なご参加をお待ちしております。

問い合わせ先：東日本研究部会担当理事  
谷 洋之（上智大学）  
tani-hi@sophia.ac.jp

#### 《中部日本部会》

日 時：2015年12月13日（日）13：30  
～17：00

会 場：名古屋大学国際開発研究科棟5階  
第7演習室（516）  
（地下鉄名城線「名古屋大学」駅  
1番出口より徒歩5分、法学部棟  
の隣・留学生センター正面の8階  
建ての建物）

・研究報告予定（10月21日現在）

- 1) ホリウチ・アリッセ・イズミ（Horiuchi Alice Izumi, 常葉大学他非常勤講師）  
「日本における中南米出身者の就労・  
生活について—在住中南米出身女性  
における意識調査を中心に—」
- 2) ジャケリン・ラゴネス（Jakeline Lagones, 名古屋大学大学院博士課程）  
“Challenge of Nikkei Peruvians  
second generation in Japan after the  
crisis 2008: Characteristics of second  
young generation of Nikkei Peruvian  
and their differences in employment  
status.”

問い合わせ先：中部日本研究部会担当理事  
小池康弘（愛知県立大学）  
koike-ys@for.aichi-pu.ac.jp

#### 《西日本部会》

日 時：2015年12月19日（土）13：30  
～18：00

会 場：京都大学稲盛財団記念館2階213  
号室（地域研究統合情報センター  
セミナー室）

報告を希望される方は、11月30日ま  
でに報告タイトルとあわせて問い合  
わせ先に連絡してください。プログラ  
ムは、学会ウェブサイトおよびメー  
リングリストでお知らせ致します。  
会員の皆さまの積極的なご参加  
をお待ちしております。

問い合わせ先：西日本研究部会担当理事  
村上勇介（京都大学）  
ymurakam@cias.kyoto-u.ac.jp

#### 4. 寄稿：「国際学会（Congreso Internacional: Élités y liderazgo en tiempos de cambio）参加報告」

高橋百合子（神戸大学）

昨年度のニュースレターでも紹介されたよ  
うに、2015年6月10－11日、スペインの  
サラマンカ大学で「変革期のエリートとリー  
ダーシップに関する国際学会（Congreso  
Internacional: Élités y liderazgo en  
tiempos de cambio）」が開催された。同学  
会は、スペインに新設されたラテンアメリ  
カ社会科学研究所（FLACSO - España）、  
ラテンアメリカ開発銀行（CAF）、サラ  
マンカ大学政治行政学部門による共催で  
あり、マヌエル・アルカンタラ（Manuel  
Alcántara）氏を中心として同大学イペロ  
アメリカ研究所が1994年から実施してき  
た、「ラテンアメリカのエリートに関する  
研究プロジェクト（Proyecto de Élités

Parlamentarias Latinoamericanas, 通称 PELA)」の20周年を記念して、主に欧米、ラテンアメリカ諸国から多数の研究者が集い、盛大に行われた。

筆者は、PELAが一般公開しているサーベイ・データを用いた研究報告を目的として同会議に参加した（報告題目は、“Determinants of Politicians’ Trust in Electoral Management Bodies in Latin America: A Multi-Level Analysis of PELA Survey Data”）。学会参加を通して、ラテンアメリカにおけるエリート研究のみならず民主主義研究について得られた意義深い知見を、以下、紹介させていただく。

学会に先立ち、6月8－9日には、PELAに関わった研究者によるセミナーが行われ、これまでの研究成果や今後の課題が提示された。PELAの最大の貢献は、サラマンカ大学チームが行ってきた、ラテンアメリカ各国の議員に対するサーベイ調査であり、2015年までに域内18カ国（ドミニカ共和国を含む）を対象として、5回の調査が行われてきた。同調査は、民主主義や権威主義といった政治体制、選挙・政党・議会等の政治制度に対する認識、イデオロギー、社会経済的屬性について個々の議員に質問し、その回答を共通の尺度を用いて数値化している。このデータベースは、政治エリートの認識や態度についての国別比較を可能とし、これまで多数の政治学研究に利用されてきた。

まずセミナーでは、PELA誕生の背景が説明された。PELAが開始された1990年代前半は、ラテンアメリカ諸国で誕生して日が浅い民主主義が持続、もしくは定着するかどうか、ということに幅広い関心が寄せられていた。民主主義が定着するためには、まずエリートの間で民主主義の正統性が確保されることが重要であることは知られているが、それを分析するためには

サーベイ調査が欠かせない、との認識からPELAが発足することとなったのであった。それから約20年経った現在、最新の調査結果からは、ラテンアメリカのエリート（議員）の間で、民主主義が幅広く受け入れられていることに疑問の余地がないことが報告され、同地域では「民主主義」と「権威主義」とではどちらが望ましいか、という体制レベルの議論はもはや重要視されなくなったとの指摘がなされた。

しかし、体制についての議論の重要性が薄れつつあることは、同時に、民主主義に対するエリートの態度を知ることを主な目的として始められたPELAの存在意義を問うことになった。セミナーの報告者からは、今後の課題として、質問項目やサーベイ調査のあり方を大幅に見直すことが提案された。例えば、(1)汚職、治安問題、クライアンテリズムなど、現存する民主主義体制が抱える諸問題について、エリートの認識を探る必要性、(2)一国内で政治制度や政策のあり方に多様性が見られることから、サブ・ナショナル・レベルのサーベイを行う可能性、(3)政治学において実験の重要性が高まっていることを考慮し、実験が可能になるようにサーベイ調査を再設計する必要性、が提起された。

その他、治安の悪化に伴い、一部の国では現地調査を遂行することが困難になりつつあることや、ラテンアメリカにおける民主主義の進展に伴い、民主化へ関心を寄せる公的機関や財団からの資金援助が減少したために、新たな資金源を探さねばならないことなどが、今後の課題として挙げられた。

また、セミナーに続いて開催された学会では、参加者が(1)エリートとリーダーシップに関する歴史的考察、(2)エリートとリーダーシップ研究の理論的・方法的アプローチ、(3)大統領、(4)閣僚、(5)

議員行動、(6) 地方レベルのエリートとリーダーシップ、(7) 経営者、労働組合、国際機関におけるエリートとリーダーシップ、(7) PELA の軌跡、(8) その他、の8部会のいずれかに所属し、それぞれの部会で2日間にわたる研究報告に参加した。こうしたスタイルの学会運営によって、研究関心を共有する部会参加者の間で、極めて密度の濃い議論を行うことが可能となった。

参加者の国籍は、スペインを中心とするヨーロッパ、米国・カナダ、ラテンアメリカ等多岐にわたり、また大学院生から世界的に著名な専門家まで、様々なキャリア段階の研究者が集い、研究対象、理論、方法論も極めて多様であった。こうした国際学会への参加は、世界におけるラテンアメリカ政治研究の層の厚さをうかがい知る貴重な機会であった。

筆者は、この学会への参加を通じて、同地域の民主主義をどのように評価すべきか、という問いを改めて考えることの重要性を認識するに至った。近年、比較政治学における権威主義体制への関心の高まりと並行し、ラテンアメリカ政治研究においても「民主主義の衰退」説が広まりつつあるが、治安の悪化や汚職の蔓延、それに抗議するデモの多発は、既存の民主主義の質の悪化とみるべきか、それとも民主主義そのものの衰退とみるべきか、真正面から考えることは重要な研究課題である。こうした問題も含め、現在のラテンアメリカ諸国で見られる政治変化に対する理解を深めるためには、現地調査を行うことに加えて、こうした国際学会へ参加して積極的に意見交換を行うことも極めて有意義であることを最後に強調したい。

## 5. 寄稿：「地域研究コンソーシアム (JCAS) の活動」

幡谷則子 (上智大学)

2015年11月1日(土)、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)において、2015年度地域研究コンソーシアム(JCAS)総会と一般公開シンポジウムが開催された。総会では、宮原暁・JCAS運営委員長(大阪大学グローバルコラボレーションセンター)から、配付資料に基づき今年度の活動報告が行われた後、次世代ワークショップ採択者報告(5件)と第5回地域研究コンソーシアム賞授賞式が行われた。また、会場ロビーではJCASプロジェクト等のポスターセッションが行われた。なお2015年11月現在で加盟組織は99にのぼっている。

総会に引き続き、一般公開シンポジウムが開催された。「境界領域への挑戦と『地域』」という総合テーマのもとに、サウジアラビアとUAE国境、パレスチナ-イスラエル問題、ウクライナほか環黒海地域における国境問題、アフリカの紛争と国境の関係の再考、東南アジア海域世界の循環的關係による環境形成のプロセス分析など、多様でかつダイナミックな5つの事例分析報告があった。グローバル化が進む中での境界・領域に関する考察は、地域別の国民国家形成過程の再評価に役立つ。ラテンアメリカ地域における今後のトランス・ボーダー研究にも参考になるところ大であった。



## 6. 若手支援助成制度受給者の報告 「2015年度ラテンアメリカ研 究学会（LASA）参加報告」

牧田裕美（東京大学大学院・博士課程在籍）

本年5月27日から30日にかけて、ラテンアメリカ研究学会（Latin American Studies Association, LASA）の2015年度大会がプエルトリコのサン・フアンにて開催された。若手支援制度の支援を受け“The emergence of a new strategy in Bolivian movements: Actor’s dynamics using the Multi-Agent Simulation”と題して報告を行った。本年度の研究大会のテーマは「不安定性、排除、緊急事態」であり、ラテンアメリカにおける差別や排除の歴史を分析する傾向が強いものとなった。サブテーマは「アフロラテンアメリカン・先住民」、「農業および地方部の生活」、「文化・権力・政治的主観性」、「経済と政治社会」、「ジェンダー・フェミニスト研究」、「個人の権利と社会」、「国際関係論」、「労働者と階級関係」、「マスメディアと大衆文化」、「宗教とスピリチュアル」、「移民と南米のディアスポラ」、「防御・暴力・危険」など多岐に渡った。パネル数は約1200におよび報告者の数はおよそ5000名にのぼるラテンアメリカ研究における最大規模の国際学会であったといえる。

本発表は「社会運動と市民社会」というサブテーマから派生した「社会運動と天然資源をめぐる闘い」セッションに分類された。聴衆も資源管理に伴う社会不安を分析する研究者が多かったためか、社会運動論の専門用語を用いた具体的な事例の提示を含む活発な質疑応答が行なわれた。これまで文献において目で触れることの多かった社会運動理論における専門用語を、耳で触れることが新鮮な体験であっただけでなく

それを生き活きと話す発表者および聴衆に刺激を受けた。

本報告の目的は、2000年以降のボリビアの社会運動における動員数の増加を説明する要因を明らかにすることであった。ボリビアの社会運動をめぐる局面は2000年を境に大きく変化している。その転換点は、上下水道公社の民営化に対する反対運動であるコチャバンバ水戦争（2000）である。1985年以降ボリビアで採用された新自由主義経済政策により、赤字公営企業の売却および改革に不都合と思われる労働組合を含む運動組織の勢力削減が行なわれた。社会運動の発生に不都合ともいえる状況下で、なぜボリビアは2000年の水戦争以降、ガス戦争（2003）、第二次水戦争（2005）と続く大規模な社会運動を実現しかつ運動の目標を達成してきたのか。社会運動への市民の参加を促し、その規模を拡大させた要素とその過程を示すことで、ボリビア社会運動の成功要因を明らかにできると考えた。

本研究では、ボリビア社会運動を運動組織と民衆の相互作用から生じる社会情勢の変化として捉えた。この変化を、マルチエージェント・シミュレーション（Multi-Agent Simulation, MAS）と社会運動論、現地調査の技法を統合的に活用することで、理論モデルと実証データの両面から表現し分析した。MASは、多主体間のわずかな行動変化が結果に重大な影響を及ぼす過程をコンピュータ技術の力によって可視化する。本研究の分析枠組みは社会運動理論における「動員構造」である。動員構造とは、民衆の不満を社会運動に転換させる社会構造を指す。ボリビアの文脈に当てはめると、強固な内部構造を持つ住民組織と、資源管理への不満に伴う民衆の歴史的記憶が、運動の規模を拡大し成功に導いたと考えられる。本研究では、現実において再現することが不可能な社会運動の発生をコンピュー

タ上で再現し、再実験が可能な形で社会運動の発生のメカニズムを検討した。

結果、社会運動家が同じ戦略を採用した場合でも、動員構造によって民衆の運動への参加率が変化することが明らかとなった。つまり MAS で構築した仮想ボリビアにおいて動員構造の変化によって社会運動の民衆の参加率の変化を再現することに成功したといえる。ただ、この動員構造はボリビア特有のものなのか、もしくはボリビアと同じ動員構造であっても運動が大規模化しなかった事例はラテンアメリカに存在するのかなど、研究結果の応用と事例への適用という部分にはさらなる検証が必要である。

発表者はあくまでもフィールドワーカーとしての立場からコンピュータ技術を活用することを目指している。だが MAS という方法論を地域研究と融合させ、かつ地域研究者にその解釈を提示することに関しては課題が多く残る。方法論としての特殊性を乗り越える必要があることを痛感したが、全てが貴重な体験であった。日本ラテンアメリカ学会の若手支援制度によりこの機会が実現したことに、この場をお借りして深い感謝の意を示したい。

## 7. 事務局から

2015年9月27日理事会決定

本会報で別途説明がございますように、株式会社国際文献社との業務委託に伴い、会員の皆様に係る手続きが一部変更されます。業務移行が近づきましたら、改めて郵便およびウェブサイトにて広報致しますが、この機会にご熟読下さいますよう、お願い申し上げます。

今年度も既に半分が過ぎました。会費の納入がお済みでない方は速やかにお振込下さい。過去の会報でも繰り返しお伝えしております通り、会費を連続して2年間滞納

した場合は除名となることがあります。

### 1. 会員情報

[Redacted member information]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

[Redacted text block]

#### 編集後記

皆様のご協力のおかげで、ようやく編集作業にも慣れかけてきました。この場を借りて御礼申し上げます。

夏季休暇中には国外出張された会員も多いと思います。かくいう筆者もメキシコのチアパス自治大学から招待されて、約20年ぶりにサン・クリストバル・デ・ラス・カサス市を訪れました。交通量と観光客が倍増したのに驚きつつも、変わらない街並みには感慨ひとしお、と言いたいところがホテルや商店がやたら増えて賑やかになったのを見て内心複雑。聞いてみればチアパスのジニ係数はここ10年で急速に悪化し、域外に流出する人口も増えたというから、地域の現実には表面的に目で見ただけではわからないものだと痛感しました。

(安原 毅)

## 事務局業務の外部委託に伴う手続きの変更について

第36回総会での議決に従い、学会事務局がこれまで行ってきた会員管理の業務が(株)国際文献社に委託されます。これに伴い、ウェブサイトを通じた会員情報管理システム「マイページ」がまもなく導入される予定です。このシステムを使うことで、以下のことが可能となります。

- 1) 主要な会員情報の変更が会員ご自身で随時可能になります。
- 2) 会費の納入状況が随時確認できます。
- 3) 「マイページ」の検索機能を使うことにより、従来の名簿と同様に他の会員の情報を知ることができます。氏名、会員区分、専門分野に関する情報は公開されますが、それ以外の情報はご自身で公開の可否を設定できます。初期設定では、所属機関にまつわる情報は公開、住所にまつわる情報は非公開となります。

「マイページ」へのリンクは学会ウェブサイト上に設定されます。また、「マイページ」の操作方法は郵送でお手元に届きますので、そちらをご参照下さい。

外部委託により、会員の皆様に関わる以下の手続きの方法が変更となります。

所属、住所、電話/FAX番号、メールアドレス、専門分野、郵便物送付先(所属・自宅)、各種情報の公開可否の変更	ご自身でウェブサイト「マイページ」上でご変更下さい。
シニア会員への会員区分変更	マイページ内のお問合せページか、(株)国際文献社の窓口メールアドレス(ajel-post@bunken.co.jp)にご連絡下さい。
休会	
その他「マイページ」に関する問い合わせ	

上記以外の手続きは従来の通りです。

会費の納入	お手元に届きます払込取扱票を用いてお支払い下さい。なお、会費納入の通知は(株)国際文献社より発送致します。
学籍を有する会員への会員区分変更	年会費納入の際、払込取扱票に所属大学院を明記し、指導教員より署名・押印を得て下さい。
学会ニュースへのメールアドレス登録・変更、諸情報の掲載・配信の依頼	ウェブサイト・学会ニュース担当理事までメールでご連絡下さい。
若手支援制度の申請	事務局まで書類一式をご郵送下さい。
退会	事務局までご連絡下さい。
その他問い合わせ	

### 会費納入のお願い

学会会費を未納の方は、下記の郵便振替口座にご送金願います。「6. 事務局から」にもある通り、会費を連続して2年間、無届で滞納した場合は除名となることがあります。

口座記号番号：00140-7-482043

加入者名：日本ラテンアメリカ学会

No.118 2015年12月8日発行

### 学会事務局

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学宮地隆廣研究室気付

TEL 042-330-5248

FAX 042-330-5448

ajel.jalas@gmail.com